

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名: **グローバル人材育成院** 部局長名: **鈴木 孝義**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
⑤センター・機構等業務	管理運営領域の目標の達成状況
<p>①UNCTAD短期研究者受入れプログラム及び長期(STI for SDGs博士)プログラムを研究科と連携しながら実施し、海外からの優秀な大学院生の受入れを促進する。</p> <p>②米商務省重要言語奨学金(CLS)プログラムをオンラインにより着実に実施するとともに、次年度に実施が予想される対面でのプログラムに向けて準備を進める。</p> <p>③研究科との協力により、海外協定大学と連携しDXを活用して学ぶオンライン共同学習プログラムおよびそのコンテンツの開発に着手する。</p> <p>④大学院予備教育特別コースにおいて、優秀な留学生を確保しつつ、今年度から新規開設した入門クラス、専攻科クラスの更なる広報とコースの安定的運用に取り組む。</p> <p>⑤国際同窓会による会員及び在籍留学生対象の各種イベントや広報活動を通じ、会員らのネットワークを利用した留学希望者に対する本学のPRへ積極的に展開し、優秀な留学生獲得に繋げる。</p> <p>⑥コロナ禍からの回復状況にあわせ、オンラインプログラムも活用しつつ、交換留学および派遣プログラムの充実を図るとともに、研究留学による大学院生の海外派遣数を伸ばすために、プログラムや制度等を戦略的に検討する。</p> <p>⑦グローバル人材育成特別コース及び同学部・学科型プログラムについて、withコロナに対応した新たなグローバル教育の構築を目指して、オンラインを活用した国際交流を取り入れた多様な派遣モデルを提供し、学生の海外派遣の支援と環境の充実を図る。</p> <p>⑧OUGEとの連携の下、One Young Worldマンチェスター大会への学生派遣を支援する。</p> <p>⑨国立六大学国際連携機構とASEAN大学連合(AUN)および台北大学連盟(USTP)とのコンソーシアム間連携を強化し、新たな学生および研究者交流を促す。</p> <p>⑩日本留学海外拠点連携推進事業と連携し、海外(特に東南アジア地域)からの優秀な留学生獲得のため、日本留学セミナー、アカデミックセミナーなどを実施する。</p>	<p>①短期研究者受入れプログラムでは、アフリカ・ASEAN地域から13人の若手女性研究者が渡日し本学で研究活動を行った。また、本学とUNCTADとの約3年に渡る交流が評価され、UNCTADテクノロジー・ロジスティクス局長の来学が実現し、教職員や地域の方々を対象とした講演を行い約100名が参加した。</p> <p>②米商務省重要言語奨学金(CLS)プログラムでは、全米から選ばれた学生21人がオンラインで参加し、日本語研修の他、SDGsと地域の課題を題材にした動画を活用した授業を実施し、米国より高評価(5段階評価で4.24)を得た。また、次年度の対面プログラム実施に向けて、本学日本人学生との活発な交流を推進するため、日本人ルームメイトやランゲージパートナーの配置などの受入体制を整えた。</p> <p>③国際デジタルサテライトキャンパス構想のプロトタイププロジェクトとして、環境生命科学研究科と協力し、東南アジア及びアフリカ諸国の7大学とプロジェクト開始に向けた協議及び合同シンポジウム・セミナー等を開催した。</p> <p>④大学院予備教育特別コースでは、より多くの優秀な留学生の確保と多様なニーズに対応するため、既存の基礎、応用クラスに加え、新たに入門クラスと専攻科クラスを開設し、習熟度別クラスの拡充を行った。また、本コースPRのため、コース紹介動画を作成し、HPを刷新した。</p> <p>⑤国際同窓会学生スタッフの企画による各種イベントを実施し、参加学生に対して国際同窓会の周知を図った。総会をハイブリッド形式で開催し、新規留学生の獲得に関する問題点等を共有した。</p> <p>⑥交換留学(EPOK)については、派遣学生数が前年度5名(うち2名はオンライン履修)から大幅に回復し、27名(うち1名はオンライン履修)を派遣した。語学研修は、引き続き夏季・春季ともにオンラインプログラム(夏季参加者44名、春季参加者15名)を実施したが、春季についてはコロナ禍以後初めてグループ派遣プログラム(マラヤ大学:参加者18名)を再開した。大学院生の研究留学についても、前年度4名から10名へと大幅に増加した(令和5年2月末時点)。</p> <p>⑦グローバル人材育成特別コースでは、オンラインを含む国内外の国際交流の機会を提供・指導した結果、令和4年度の国際的な活動に参加したコース生は延べ134人にのぼり前年度</p> <p>⑧One Young Worldマンチェスター大会への派遣学生を2名選考し派遣した(うち1名はオンライン参加)。</p> <p>⑨国立六大学国際連携機構では、AUNとの共催によりAUN加盟大学と国立六大学の学生を対象としたオンラインプログラムを10月と11月に開催し、定員を超える申込みがあった。USTPとは第2回目となる研究者間交流促進のためのジョイントシンポジウムを12月にオンラインで開催し、連携を深めた。</p> <p>⑩カンボジア、ラオス、ASEAN全体向け日本留学フェアやAcademicセミナー・キャリアセミナーなどの各種セミナーを対面やオンラインで開催し、約12,600人の日本留学への意欲向上につなげた。カンボジア(プノンペン)及びラオス(ビエンチャン)に新たな現地事務所を開所した。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
 注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。